

平成28年度 北海道滝川高等学校定時制課程 年度末反省会議資料(教務部)

領域	番号	目標	本年度の具体的方策	評価平均	分掌平均	達成度評価			分掌・係としての達成度評価についての自己分析	達成のための取組方法の改善や開始時期について
						Aの個数	Bの個数	Cの個数		
教務部	1	観点別評価の研究と改善を図る。	観点別評価に関わる研修を行う。	3.0	3.2	2	3	4	実施していない。	2月17日(金)に研修予定。
	2		観点別評価のための考査、並びに日常の学習活動における評価方法の研究を行う。	3.0		2	4	3	指導主事訪問等で研究した。その結果をシラバス書式の変更という形で提案したい。	研修の際に試験的にシラバス書式の提案をする。
	3	個々の基礎学力を把握する仕組みを研究し、確立する。	3.2	4		5	0	入学時に国数英の3教科について、基礎学力試験を実施した。昨年度入学生との比較データなどを提示したが、データの有効利用という点では、まだ足りない。	3月22日(水)に同じ問題で再度テストを行い、個々の基礎学力がどの程度伸びたか、更に昨年度と比較して伸長具合はどうかなどのデータを作成する。	
	4	個に応じた基礎学力の定着を図る。	「学習の評価表」の有効利用と改善を図る。	3.1		3	5	1	昨年度から教務保管としている。	今年度も授業が全て終わった時点で提出してもらい、保管する。
	5		家庭学習の定着を図る仕組みを研究する。	3.2		3	6	0	昨年度に引き続き、週1回のペースで基礎学力確認プリントを課している。後半に入り、提出率が上昇し	来年度も続けたい。
	6	学習指導の工夫、改善を図る。	観点別評価と連動したシラバスの改善を行っていく。	3.0		2	6	1	昨年度、若干の変更を行い今年度分を作成してもらった。	研修の際に試験的にシラバス書式の提案をする。
	7		教務支援システムを円滑に活用できるようにマニュアルの更新を行っていく。	3.6		5	4	0	順調である。	今年度中に資格検定により単位認定した際の入力マニュアルを作成する。
	8		時間割の編成に柔軟性を持たせることで、生徒の実態に合わせた授業展開の工夫を行う。	3.6		5	4	0	先生方の協力で円滑に実施できた。	年度末に向け、欠課時数の多い生徒のために微調整を行う。
		その他、分掌として他の分掌や管理職に求める事項等	・LHRを活用し、学力向上講座の充実を図りたい。また、進路指導と連携した形を模索していきたい。							